

現代児童の生活実態に関する研究

研究第7部 高橋種昭・萩原英敏
 研究第4部 水野清子
 研究第8部 星美智子・湯川礼子
 研究第3部 加藤忠明
 共同研究者 須永進(東京都足立高等保育学院)
 尾木まり

I 目的

現代の児童(幼児期を含む)が、どのような生活を送っているかを明らかにすると共に、そのような生活が、児童の心身の健全な発達に、如何様に影響するかを、みようとすものである。

II 方法

1. 幼児の生活(特に、生活時間、習いごと、食生活を中心にして)を明らかにする為の、アンケート面接調査
 - (1) 対象者 1~7歳児をもつ親 1206名
 - (2) 面接者 保育専攻の学生
 - (3) アンケート……付表1
 - (4) 実施時期 昭和61年8月
2. 習いごとの実施機関側(特に、スイミングスクール)の教育目標や実施内容を明らかにする為のアンケート調査
 - (1) 対象者 関東一円のスイミングスクール設置団体
 - (2) アンケート……付表2
 - (3) 実施時期 昭和61年9月

III 結果及び考察

1. 「幼児の生活」の結果と考察
 1. 対象地域と人数
対象地域は表1のように、東京を中心とした首都圏と、関東の一部である。
 2. 性別

3. 対象児の年齢

対象児の年齢は、表3のように、3~6歳が多い。

4. 集団生活別

約8割が集団生活を送っている。

5. 父親の仕事の種類

7割以上がサラリーマンである。

6. 母親の年齢

7. 母親の仕事

表1 対象地域と人数

地域	東京区	東京都下	千葉県市部	神奈川県市部	埼玉県市部	上記以外の関東市部	上記以外の関東郡部	その他の市部	その他の郡部	不明	全体
N	256	104	67	283	186	23	84	128	46	32	1206
%	21.2	8.6	5.5	23.4	15.4	1.9	6.9	10.6	3.8	2.6	100.

表2 性別

性別	男	女	不明
N	541	638	30
%	44.7	52.8	2.5

表3 対象児の年齢

年齢	1・2才	3才	4才	5才	6才	7才	不明
N	91	197	360	393	147	10	11
%	7.5	16.3	29.8	32.5	12.2	0.8	0.9

表4 集団生活別

集団	幼稚園	保育園	小学校	その他	通園せず	不明
N	672	280	13	15	183	46
%	55.6	23.2	1.1	1.2	15.1	3.8

表5 父親の仕事の種類

種類	公務員	会社員	自営業	水産業林業	その他	不明
N	166	718	196	11	46	72
%	13.7	59.4	16.2	0.9	3.8	6.0

表6 母親の年齢

年齢	N	%
10代	2	0.2
20代	275	22.7
30代	814	67.3
40代	68	5.6
不明	50	4.1

表7 母親の仕事

母親の仕事	N	%
無職	713	59.0
パートタイム	139	11.5
フルタイム	210	17.4
不明	147	12.2

表8 きょうだい数

数	N	%
1人	231	19.1
2人	679	56.2
3人	243	20.1
4人以上	38	3.1
不明	18	1.5

表9 出生順位

順位	N	%
1子	603	49.9
2子	418	34.6
3子	147	12.2
4子以上	24	2.0
不明	17	1.4

表10 同居人の有無

同居人	N	%
なし	885	73.2
祖父	231	19.1
祖母	292	24.2
他の親戚の人	46	3.8
その他の人	31	2.6
不明	2	0.2

表11 父親の学歴

学歴	中学卒	高校卒	専門学校卒	短大卒	大学卒	大学院卒	不明
N	42	410	86	562	32	77	
%	3.5	33.9	7.1	46.5	2.6	6.4	

無職の母親が半分以上をしめている。

8. きょうだい数
9. 出生順位
10. 同居人の有無
11. 父親の学歴

父親の学歴は、表11のように、高校卒、大学卒で、全体の8割をしめている。

12. 母親の学歴

母親の学歴は、表12のように、高校卒が一番多く、次が短大・専門学校卒、さらに大学卒の順になっている。

13. 自宅にあるもの

自宅にあるものを調べたら、表13のような結果であった。幼児用のものを取り出してみると、ピアノ33.2%，エレクトーン27.7%，三輪車76.3%，絵本97.8%，幼児用雑誌91.0%，電動式のおもちゃ74.8%，コンピューターゲーム33.1%である。この数字は、自宅にあるという事

で、必ずしも本人のものでないかも知れないが、本は、ほとんどのものが、電動式のおもちゃ、三輪車は、4人中3名のものが、ピアノ、コンピューターゲームは、3人中1名のものが保有している事になる。また、自宅にあるものと、健康との関係を調べたところ、クーラーがある場合、喘鳴が多いという傾向がみられた。これは、クーラーで家の中に閉じこもり、家のほこりに感作されて、喘鳴を起こすのではないかと思われる。また、電動式おもちゃがある場合、伝染性膿痂疹の割合が高かった。

14. 幼児に対する親の期待像

幼児に対する親の期待像は、表14のとおりである。「思いやりのある子」「すなおな子」「責任感のある子」などが高く、一方「独立心のある子」「リーダーシップのある子」

「自己主張の強い子」などは低い。これらのことから、親は、大人や同輩と協調できる幼児を期待しており、あまり自主独立の自我を持った幼児は、期待していない事がわかる。この結果は、日本の親の特徴を示すものと考えられ、その中に、幼児を管理し、社会に従属的に適応させようとする気持ちが、よくあらわれている。これらの期待が、幼児にどのような影響を及ぼすか、健康との関係を調べたところ、「まじめな子」に育ててほしいと親が希望する場合、幼児は「疲れやすい」と訴える割合が高いが、「思いやりのある子」に育ててほしいと希望する場合、この「疲れやすい」と訴える子は逆に少ない。また「独立心のある子」「リーダーシップのある子」を希む場合、「下痢しやすい」幼児が多くなっている。これらの事から、協調性の面は、「まじめな子」といった、かなり親の圧力を感じさせる場合には、健康面に影響が出ているが、「思いやりのある子」ぐらいでは、それほど影響が出ていない事がわかる。一方、親が自主独立の自我を希望した時に、幼児に「下痢しやすい」傾向が出たのは、幼児に本当の自我の形成を認める扱いがなされてなく、「何でも自分でやれるように」と突き放す親の態度が、幼児に一種の冷たさを感じさせ、それが何らかのストレスになったのではないかと予想される。

表12 母親の学歴

学歴	中学卒	高校卒	専門学校卒	大学卒	大学院卒	不明
N	49	532	374	179	2	73
%	4.1	44.0	30.9	14.8	0.2	6.0

表13 自宅にあるもの

	テレビ	ラジオ	カセットテープ	レコード	ピアノ	エレクトーン	ビデオ	パソコン	電話器	自家用車	自転車	三輪車	クーラー	絵本	幼児用雑誌	風呂場	電動式のおもちゃ	コンピューターゲーム
N	1203	1183	1172	1049	401	335	699	156	1193	1028	1127	922	863	1182	1100	1191	904	400
%	99.5	98.0	96.9	86.8	33.2	27.7	57.8	12.9	98.7	85.0	93.2	76.3	71.4	97.8	91.0	98.5	74.8	33.1

表14 幼児に対する親の期待像

期待像	思いやりのある子	すなおな子	責任感のある子	明るい子	友達が多い子	向上心のある子	活発な子	情豊かな子	礼儀正しい子	積極的な子	協調的な子	されたい子	他人に左右される子	独立心のある子	探求心の旺盛な子
N	1063	721	710	619	477	376	360	325	244	156	132	132	101	101	
%	88.1	59.8	58.9	51.3	39.6	31.2	29.9	26.9	20.2	12.9	10.9	10.9	8.4	8.4	

期待像	コツコツやる子	運動のすぐれた子	男(女)らしい子	まじめな子	リーダーシップのある子	ゆったりとした子	冒険好きな子	自己主張の強い子	勉強のできる子	競争意欲のある子	おとなしい子	慎重な子	不明
N	90	84	82	74	59	41	34	34	32	21	11	9	3
%	7.5	7.0	6.8	6.1	4.9	3.4	2.8	2.8	2.7	1.7	0.9	0.7	0.2

15. 幼児の日課

表15のように、「殆ど、だいたい」を合わせると、85%の幼児が、日課が決まっていると答えている。この事から、この幼児期から、ほとんどのものは、日課が決まるものと考えられる。

16. 起床時間

起床時間は、7時～7時30分が半数を越え、非常に早い、又は遅いは数%に満たない。また、年齢別では、年長になるにつれて早くなっている。

17. 夕食開始時間

夕食開始時間は、18時～19時30分が大部分を占めている。

18. 就寝時間

就寝時間は、20時～21時30分間の幼児が80%近くで、21時30分以降の幼児が20%近くある。また年齢別では、年長児の方が早く就寝する傾向がみられ、年少の幼児は、親の生活リズムに合わされている様子が少しみられる。

19. 夜間の睡眠時間

夜間の睡眠時間は、9～12時間が殆んどを占めていて、十分夜間に睡眠をとっている幼児の多い事がうかがえる。

20. 自宅の室内で一人遊びをする時間

21. 自宅の室内で友達と遊ぶ時間

22. 自宅の室内で大人と遊ぶ時間

23. テレビをみる時間

24. 友達の家で遊ぶ時間

25. 近くの公園で遊ぶ時間

表20～25までは、幼児の遊び時間をいろいろな形態別に調べた結果である。なにぶん不明の数が多く、はっきりした事は言えないが、ほとんどの形態で、1時間～1時間30分費やす幼児が一番多くなっている。これらから幼児の遊びは、1時間～1時間30分の長さの時間を、1つの区切りとしてなされている事がわかる。また年齢をとってみると、年齢が長じると共に、ほとんどの遊び時間は減少していた。これは、ある年齢になると、幼稚園や保育所に通うようになる事や、年齢が長じる事で、習い事などに通う幼児が増加する為だと考えられる。

26. 健康状態

健康状態は、表26の示す通りで、「特に問題はない」と良い健康状態を保っていると答えたものが、全体の38%で一番多い。次に、何らかに問題があると答えたもので、一番多いのは「虫歯がある」というもので、約3分の1の者が問題としている。次に「かぜをひきやすい」「あせもがでやすい」の順に多くなっている。

27. 習いごとの有無

習い事に通っている者が34.1%で、大体3人に1人が

通っている事になる。この数字は、大阪の関西圏の公立、私立幼稚園児を対象にした、藤田博子の研究結果（日本保育学会 第38回 1985）の55.4%よりも低い。また、首都圏、大阪、秋田の3地域の幼児の習いごとを調べた。NHK放送世論調査所の調査結果（幼児

表15 幼児の日課

日 課	N	%
殆ど決っている	159	13.2
だいたい決っている	721	59.6
だいたい+殆ど決っている	144	11.9
余り決っていない	124	10.3
全く決っていない	19	1.6
不 明	42	3.5

表16 起床時間

起 床 時 間	N	%
6 時 以 前	6	0.5
6時～6時30分	147	12.2
6時30分～7時	136	11.2
7時～7時30分	636	52.6
7時30分～8時	171	14.1
8時～8時30分	88	7.3
8時30分～9時	7	0.6
9時～9時30分	9	0.7
9時30分以降	9	0.7

表17 夕食開始時間

夕 食 開 始 時 間	N	%
17 時 以 前	3	0.2
17時～17時30分	30	2.5
17時30分～18時	43	3.6
18時～18時30分	506	41.9
18時30分～19時	204	16.9
19時～19時30分	314	26.0
19時30分～20時	24	2.0
20時～20時30分	22	1.8
20時30分以降	3	0.2

表18 就寝時間

就寝時間	N	%
19時～19時30分	8	0.7
19時30分～20時	13	1.1
20時～20時30分	223	18.4
20時30分～21時	159	13.2
21時～21時30分	566	46.8
21時30分～22時	95	7.9
22時～22時30分	108	8.9
22時30分～23時	10	0.8
23時以後	12	1.0

表19 夜間の睡眠時間

夜間の睡眠	N	%
6時間未満	1	0.1
6時間～7時間	2	0.2
7時間～8時間	7	0.6
8時間～9時間	20	1.7
9時間～10時間	275	22.7
10時間～11時間	677	56.0
11時間～12時間	161	13.3
12時間～13時間	22	1.8
13時間以上	4	0.3

表20 自宅の室内で一人遊びをする時間

時間	N	%
なし	37	3.1
30分未満	42	3.5
30分～1時間	170	14.1
1時間～1時間30分	209	17.3
1時間30分～2時間	34	2.8
2時間～2時間30分	61	5.0
2時間30分～3時間	8	0.7
3時間～3時間30分	9	0.7
3時間30分～4時間	4	0.3
4時間以上	13	1.1
不明	622	51.4

表21 自宅の室内で友達と遊ぶ時間

時間	N	%
なし	47	3.9
30分未満	18	1.5
30分～1時間	99	8.2
1時間～1時間30分	144	11.9
1時間30分～2時間	16	1.3
2時間～2時間30分	34	2.8
2時間30分～3時間	4	0.3
3時間～3時間30分	19	1.6
3時間30分～4時間	1	0.1
4時間以上	3	0.2
不明	824	68.2

表22 自宅の室内で大人と遊ぶ時間

時間	N	%
なし	49	4.1
30分未満	33	2.7
30分～1時間	133	11.0
1時間～1時間30分	122	10.1
1時間30分～2時間	18	1.5
2時間～2時間30分	36	3.0
2時間30分～3時間	1	0.1
3時間～3時間30分	14	1.2
3時間30分～4時間	3	0.2
4時間以上	3	0.2
不明	797	65.9

の生活とテレビ NHK放送世論調査所編 1981)によると、表28のように、首都圏で高い女子でも26%で、今回の数字の方が高い。なぜこの様な結果になったかは、藤田の研究は対象児が、習いごとを多くしている幼稚園のみを対象としている為ではないかと考えられ、またNHKの調査は少し調査時期が古く、それ以後、習いごとをしている幼児が増加傾向にある為ではないかと考えられる。

28. 習いごとの種類

どのような習い事をしているか、自由記述をもらったが、その種類は、大体12種類に及んだ。そこで、これ

らの習い事を内容別に、1、運動（スイミングスクール・体操クラブ・サッカークラブ・武道・その他のスポーツ）、2、おけいこ一情操教育（音楽教室・絵画教室・習字・舞踊）、3、知育（幼児教室・塾・英語教室）に大別し、色んな角度から分析する事にした。また、習いごとをやっている者と、やっていない者に、どんな差があるかもみた。

29. 習いごとと地域

表29が示すように、習いごとの内容は、地域差は見出せなかったが、習いごとの有無では、1%水準の差がみ

表23 テレビを見る時間

時 間	N	%
な し	6	0.5
30 分 未 満	12	1.0
30 分 ～ 1 時 間	155	12.8
1 時間～1 時間30分	408	33.7
1 時間30分～2 時間	110	9.1
2 時間～2 時間30分	181	15.0
2 時間30分～3 時間	17	1.4
3 時間～3 時間30分	29	2.4
3 時間30分～4 時間	1	0.1
4 時 間 以 上	4	0.3
不 明	286	23.7

表24 友達の家で遊ぶ時間

時 間	N	%
な し	59	4.9
30 分 未 満	20	1.7
30 分 ～ 1 時 間	97	8.0
1 時間～1 時間30分	149	12.3
1 時間30分～2 時間	23	1.9
2 時間～2 時間30分	37	3.1
2 時間30分～3 時間	6	0.5
3 時間～3 時間30分	17	1.4
3 時間30分～4 時間	1	0.1
4 時 間 以 上	2	0.2
不 明	798	66.0

表25 近くの公園で遊ぶ時間

時 間	N	%
な し	55	4.5
30 分 未 満	17	1.4
30 分 ～ 1 時 間	93	7.7
1 時間～1 時間30分	165	13.6
1 時間30分～2 時間	46	3.8
2 時間～2 時間30分	103	8.5
2 時間30分～3 時間	16	1.3
3 時間～3 時間30分	28	2.3
3 時間30分～4 時間	2	0.2
4 時 間 以 上	9	0.7
不 明	675	55.8

られ、東京23区、東京都下、及び千葉県市部が他の地域より、習いごとをする幼児の数が多かった。

30. 習いごとと性別

表30が示すように、習い事の内容に1%水準の性差がみられた。男児が運動、知育の習い事が多く、女児がおけいこ一情操教育の習い事が多かった。これを、前述した、NHK放送世論調査所の研究結果（表31）と比較してみると、全く同じ傾向であった。この事から、男児は運動・知育の習い事が好きであるか、または、それらの能力の育つのを親が期待している。一方女児は、おけいこ一情操教育の習い事が好きか、または、それらの能力の育つのを親が期待していると考えられる。また、女児の方が1%有意で、習い事をする者が多かった。

31. 習いごとと年齢

表32が示すように、習い事の内容に1%水準の年齢差がみられ、3歳以前は運動が多く、5歳でおけいこ一情操教育が多く、4歳以後知育が多くなっている。また習い事の有無でも、年長になるにつれて、習い事をやる幼児が多くなっており、1%の有意差が認められる。

32. 習いごとと集団生活

表33のように、習い事の内容では5%水準で差がみられ、幼稚園児の方が運動の方に、また保育園児の方が、おけいこ一情操教育の方に通う子が多くなっている。ただ習い事の有無では、断然、幼稚園児の方が多く、1%有意差がある。

33. 習いごとと父親の仕事

習い事の内容及び有無に関して差はみられない。

34. 習いごとと母親の仕事

表26 健康状態

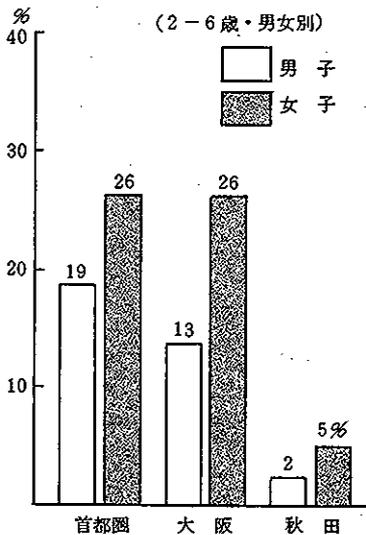
状態	ゼーゼー しやす	湿疹が多い	とびひが できやすい	あせもが できやすい	かぜを ひきやすい	結膜炎を おこしやすい	げりを しやす	便秘を しやす	お腹を痛がる ことがある	疲れやすい	頭が痛い ことがある
N	96	100	36	193	265	32	53	65	105	38	18
%	7.9	8.3	3.0	16.0	21.9	2.6	4.4	5.4	8.7	3.1	1.5

状態	はなじを出す ことがある	口の中にブツ ブツができる	骨折した ことがある	食欲のない ことが多い	眠りが浅い	園を休む ことが多い	虫歯がある	起すこと多い かんしゃくを	特に問題ない	不明
N	146	21	33	112	35	21	405	93	460	30
%	12.1	1.7	2.7	9.3	2.9	1.7	33.5	7.7	38.0	2.5

表27 習いごとの有無

習いごと	N	%
通わせている	412	34.1
通わせていない	756	62.5
不明	41	3.4

表28 幼児の習いごと



母親の仕事、フルタイムとパートタイムに分けて、習い事の内容及び有無の差をみたが、差はみられない。

35. 習いごとと出生順位

表34のように、習い事の内容では差がみられないが、習い事の有無では、1%水準の差がみられ、第二子の方が第一子、三子、四子以上よりも、習い事をする幼児が多いという事がわかった。

36. 習いごとと父親の学歴

表35のように、習い事の内容では差がみられないが、習い事の有無では、1%水準の差がみられ、大学卒以上の高学歴の父を持つ幼児ほど、習い事をする幼児が多かった。

37. 習いごとと母親の学歴

表36のように、母親の学歴は、父親とちがって、習い事に差を生じさせなかった。これらの事から、習い事をするかどうかは、母親の学歴より父親の学歴の方に、影響されていると考えられる。

38. 習いごとと、どんな子どもに育てたいか、という親の期待感

表37のように、親の期待感の多かった8つの項目について分析したところ、習い事の内容及び有無について、差は見出せなかった。

39. 習いごとと、幼児の生活時間

習い事を行っているかどうかによって、幼児の生活時間が、どのようにちがってくるかみたものが、表38である。これをみると、習い事を行っていない幼児の方が、自宅の室内で、一人遊びや、大人相手に遊ぶ時間が、習い事を行っている幼児より長い(1%有意)。また、

表29 習いごとと地域

内容 種類 地域		習い事の内容の差 N.S.														習い事の有無の差 P<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数
		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武道	その他のスポーツ	小計	音楽教室	絵画教室	習字	舞踊	小計	幼児教室	塾	英語教室		
東京23区	35	16	1	2	0	54	40	12	7	10	69	3	8	7	18	108	148
東京都下	9	2	3	0	0	14	21	3	2	0	26	4	6	1	11	40	64
千葉県市部	8	3	1	0	0	12	13	1	1	0	15	2	4	1	7	32	35
神奈川県市部	28	13	4	0	0	45	51	10	10	5	76	2	5	5	12	99	184
埼玉県市部	19	6	3	0	0	28	27	1	6	4	38	1	3	1	5	56	130
上記以外の地域	17	13	0	1	0	31	41	7	4	7	59	1	5	2	8	70	211

表30 習いごとと性別

内容 種類 性別		習い事の内容の差 P<0.01														習い事の有無の差 P<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数
		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武道	その他のスポーツ	小計	音楽教室	絵画教室	習字	舞踊	小計	幼児教室	塾	英語教室		
男	65	31	12	2	0	110	41	12	7	3	63	6	19	9	34	162	379
女	53	22	0	1	0	76	147	22	24	24	217	7	12	8	27	241	397

表31

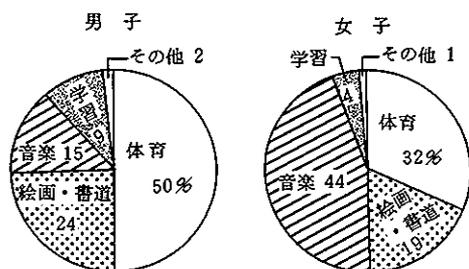


表32 習いごとと年齢

内容 種類		習い事の内容の差 P<0.01														習い事の差 P<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数
年 齢	スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武 道	その他のスポーツ	小 計	音楽教室	絵画教室	習 字	舞 踊	小 計	幼児教室	塾	英語教室	小 計		
	1・2才	4	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	1	6
3才	14	3	0	0	0	17	3	1	0	1	5	1	0	2	3	22	175
4才	33	19	2	0	0	54	50	10	1	10	71	6	9	4	19	118	242
5才	40	21	3	1	0	65	99	18	14	11	142	2	14	5	21	175	218
6才	26	8	7	2	0	43	36	4	10	4	54	3	6	5	14	79	68
7才以上	1	0	0	0	0	1	5	1	6	1	13	0	2	1	3	8	2

表33 習いごとと集団生活

内容 種類		習い事の内容の差 P<0.05														習い事の差 P<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数
集団生活別	スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武 道	その他のスポーツ	小 計	音楽教室	絵画教室	習 字	舞 踊	小 計	幼児教室	塾	英語教室	小 計		
	幼稚園	83	45	12	2	0	142	146	29	21	22	218	5	23	14	42	299
保育園	14	2	0	1	0	17	33	2	3	2	40	2	5	0	7	56	224
小学校	2	0	0	0	0	2	4	1	6	1	12	0	2	1	3	9	4
その他	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	3	3	0	0	3	7	8
通園せず	16	4	0	0	0	20	9	2	1	1	13	3	1	2	6	34	149

表34 習いごとと出生順位

内容 種類 出生順位		習い事の内容の差 N.S.														習い事の差 有無の差 P<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数
		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武道	その他のスポーツ	小計	音楽教室	絵画教室	習字	舞踊	小計	幼児教室	塾	英語教室		
第一子	70	26	5	1	0	102	93	16	15	13	137	7	10	10	27	206	397
第二子	40	24	6	1	0	71	82	14	11	11	118	6	18	4	28	165	253
第三子	6	3	1	1	0	11	18	3	4	3	28	0	3	3	6	33	114
第四子以下	2	0	0	0	0	2	2	0	1	0	3	0	0	0	0	5	19

表35 習いごとと父親の学歴

内容 種類 父親の学歴		習い事の内容の差 N.S.														習い事の差 有無の差 p<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数
		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武道	その他のスポーツ	小計	音楽教室	絵画教室	習字	舞踊	小計	幼児教室	塾	英語教室		
中学卒	4	1	1	0	0	6	8	0	1	0	9	0	2	0	2	12	30
高校卒	34	9	3	3	0	49	55	2	11	2	70	4	4	5	13	112	298
短大・ 専門学校卒	3	6	1	0	0	10	10	4	5	6	25	0	2	1	3	25	61
大学卒	68	33	6	0	0	107	102	26	11	16	155	8	22	10	40	227	337
大学院卒	4	3	1	0	0	8	5	2	0	3	10	1	0	1	2	12	20

表36 習いごとと母親の学歴

内容 種類 母親の学歴		習い事の内容の差 N.S.														習い事の 有無の差 p<0.01	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事 をやっている 人の数	習い事 をやっていない 人の数
		スイミング スクール	体操 クラブ	サッカー クラブ	武 道	その 他の スポ ーツ	小 計	音 楽 教 室	絵 画 教 室	習 字	舞 踊	小 計	幼 児 教 室	塾	英 語 教 室		
中学卒	3	1	0	0	0	4	6	0	1	0	7	0	1	1	2	9	40
高校卒	54	21	4	3	0	82	82	12	16	12	122	7	13	8	28	183	349
短大・ 専門学校卒	31	17	6	0	0	54	60	14	7	7	88	2	13	4	19	128	246
大学卒	25	14	2	0	0	41	30	8	4	8	50	4	3	4	11	67	112
大学院卒	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1

表37 習いごととどんな子どもに育てたいか

内容 種類 どんな子どもに 育てたいか		習い事の内容の差 N.S.														習い事の 有無の差 N.S.	
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				習い事 をやっている 人の数	習い事 をやっていない 人の数
		スイミング スクール	体操 クラブ	サッカー クラブ	武 道	その 他の スポ ーツ	小 計	音 楽 教 室	絵 画 教 室	習 字	舞 踊	小 計	幼 児 教 室	塾	英 語 教 室		
活発な子	37	19	3	2	0	61	54	12	7	7	80	3	10	4	17	124	236
すなおな子	58	26	6	1	0	91	114	11	19	14	158	7	15	9	31	226	495
思いやりのある子	103	50	9	3	0	165	180	29	27	23	259	12	20	11	43	360	703
向上心のある子	30	18	4	1	0	53	64	22	10	8	104	2	16	6	24	135	241
責任感のある子	77	32	5	1	0	115	106	21	20	14	161	4	17	8	29	235	475
明るい子	64	27	5	2	0	98	110	15	13	16	154	9	13	8	30	219	400
情操豊かな子	38	13	5	0	0	56	61	12	4	9	86	1	10	6	17	114	211
友達の多い子	47	24	7	1	0	79	59	9	17	6	91	6	10	10	26	151	326

表40 習いごとと健康状態

内容 種類		習い事の内容の差 P<0.01													N.S.			
		運 動					おけいこ(情操)					知 育			習い事をやっている人の数	習い事をやっていない人の数		
健康状態		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武 道	その他のスポーツ	小 計	音楽教室	絵画教室	習 字	舞 踊	小 計	幼児教室	塾			英語教室	小 計
口の中にブツブツができる		4	0	0	1	0	5	3	1	0	1	5	2	2	2	6	13	8
特に問題はない		52	19	4	2	0	77	67	11	9	7	94	4	8	8	20	150	310

表41 習いごとの数

内容 種類		習い事の内容の差 N.S.														
		運 動					おけいこ(情操)					知 育				
習いごとの数		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武 道	その他のスポーツ	小 計	音楽教室	絵画教室	習 字	舞 踊	小 計	幼児教室	塾	英語教室	小 計
1	つ	74	23	7	3	0	107	125	13	11	13	162	7	17	6	30
2	つ	35	18	3	0	0	56	55	11	16	9	91	4	9	8	21
3	つ	7	8	1	0	7	16	12	4	4	3	23	1	3	1	5
4	つ	2	2	0	0	0	4	2	4	0	2	8	1	1	1	3
5	つ以上	1	2	1	0	0	4	2	2	0	0	4	0	1	1	2

通う手段は、徒歩が一番多く、次に自家用車になっている。また内容によって、通う手段に差が認められる。

46. 通うに要する時間

通うに要する時間は、10分以内が一番多く、時間が長くなる程、少なくなっている。この事から、幼児期の習い事は、近いところでやられており、あまり無理はさせてない事がわかる。ただ内容によって1%水準の差がみられ、「知育」の習い事をしている幼児は、遠くまで通っているものが多い傾向が見受けられた。

47. 通わせている理由

通わせている理由を自由記述してもらったら、表47のような結果が出た。これをみると、「習い事それぞれの

持つ効果」を理由にあげているのが一番多く、次に「社会性が育つ」という理由をあげている人も多い。また、「近所にある」と身近な事から通わせている人も少なくない。意外に少なかったのが「好奇心・積極性・集中力・性格など」、人格面の期待である。また「本人の希望」から通わせているのは、全体からみると非常に少なく、何らかの親の期待から、習い事に通われている幼児の姿が浮かびあがってくる。また、理由でも内容によって1%有意差が認められている。

48. 通わせて良い点

通わせてみて、良い点は何かを自由記述してもらったら、表48のような結果が出た。これをみると、通わせて

いる理由と同じ傾向が出ており、「習い事それぞれの持つ効果」が一番多く、次に「社会性が育つ」面などに良い評価を与えている。また通わせている理由では、それほど多くなかった「集中力が育つ」や「性格が変化する」など、人格面の評価もかなりみられている。これらの事から、通わせる時に期待したものが、そのまま育っていると感じている親と、人格面などちがった面が育ってきたと感じている親がいそうである。なお、この良い点においても、内容によって1%有意差が認められている。

49. 通わせて悪い点

通わせてみて悪い点は何かを、自由記述してもらったら、表49のような結果が出た。これをみると、「心身に悪影響」が一番多く、次が「生活時間上問題である」で、その数は「特になし」に比べて、かなり少数であった。これらの事から、心身への悪影響など一部に問題を感じる親はいても、ほとんどの親は、それほどマイナスな面は、感じていないようである。ただ、「習いごとと健康」のところで述べたように、習い事によって幼児自体は、何らかのストレスを感じている事が、健康面からみられており、習い事に対する幼児と親の感じ方のギャップは、幼児の健全な心身の発達に、問題を投げかける事が予想される。

50. 習いごととは楽しいか

表42 週何回通うか

内容	種類	週何回		
		一回	二回	三回以上
習い事	スイミングスクール	91	26	1
	体操クラブ	49	5	0
	サッカークラブ	10	1	0
	武道	0	1	2
	その他のスポーツ	0	0	0
	小計	150	33	3
	内容の差 (おけいこ(情操))	音楽教室	188	5
絵画教室		34	0	0
習字		29	2	0
舞踊		22	5	0
小計		273	12	2
P^1000 育	幼児教室	9	2	2
	塾	8	20	4
	英語教室	16	1	0
	小計	33	23	6

表43 1回の時間

内容	種類	時間				
		1/30分	31/60分	61/90分	91/120分	120分+
習い事	スイミングスクール	3	79	29	6	0
	体操クラブ	1	41	8	2	0
	サッカークラブ	0	6	2	2	0
	武道	0	1	0	2	0
	その他のスポーツ	0	0	0	0	0
	小計	4	127	39	12	0
内容の差 (おけいこ(情操))	音楽教室	51	135	3	2	0
	絵画教室	1	17	8	4	3
	習字	2	24	3	1	0
	舞踊	1	23	2	0	0
	小計	55	199	16	7	3
P^1000 育	幼児教室	0	5	3	3	2
	塾	5	17	2	1	4
	英語教室	0	13	3	1	0
	小計	5	35	8	5	6

表44 月謝

内容	種類	月謝			
		1000円	1000~2000円	2000~3000円	3000円+
習い事	スイミングスクール	4	77	34	4
	体操クラブ	4	45	1	4
	サッカークラブ	3	9	0	0
	武道	1	2	0	0
	その他のスポーツ	0	0	0	0
	小計	12	133	35	8
内容の差 (おけいこ(情操))	音楽教室	8	150	33	8
	絵画教室	3	28	2	2
	習字	15	16	0	0
	舞踊	0	13	10	0
	小計	30	207	45	10
P^1000 育	幼児教室	2	6	2	3
	塾	2	16	5	9
	英語教室	2	11	3	1
	小計	6	33	10	13

表45 通う手段

内容	種類	通う手段									
		徒歩	電車	バス	自家用車	自転車	バスと電車	スクールバス	園の中で	その他	
習い事の内容の差 P<0.01	運動	スイミングスクール	22	13	18	28	19	2	16	0	0
		体操クラブ	24	5	2	5	5	1	0	11	0
		サッカークラブ	5	0	1	3	2	0	0	1	0
		武道	1	0	0	2	0	0	0	0	0
		その他のスポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	52	18	21	38	26	3	16	12	0
	おけいこ(情操)	音楽教室	108	4	10	35	21	1	0	9	10
		絵画教室	23	2	0	6	1	0	0	3	0
		習字	22	0	0	3	4	0	0	1	1
		舞踊	13	2	1	8	3	0	0	0	0
		小計	166	8	11	52	29	4	0	25	11
	知育	幼児教室	5	3	0	1	2	0	0	1	1
		塾	21	0	0	5	5	1	0	0	0
		英語教室	7	2	2	4	1	0	0	0	1
		小計	33	5	2	10	8	1	0	1	2

表46 通うに要する時間

内容	種類	通う時間				
		10分	11~30分	31~60分	60分	
習い事の内容の差 P<0.01	運動	スイミングスクール	54	56	7	1
		体操クラブ	32	20	1	0
		サッカークラブ	6	6	0	0
		武道	3	0	0	0
		その他のスポーツ	0	0	0	0
		小計	95	82	8	1
おけいこ(情操)	音楽教室	143	50	4	0	
	絵画教室	27	4	3	0	
	習字	26	4	1	0	
	舞踊	0	5	1	0	
	小計	217	63	9	0	
知育	幼児教室	7	4	2	0	
	塾	25	4	3	0	
	英語教室	8	6	2	0	
	小計	40	14	7	0	

習い事は楽しいかどうかをみたら、表50のように、「はい」「まあまあ」が大部分で、多くの親は楽しく行っていると考えている。

51. 習いごとは役立つか

習い事は役立つかどうかをみたら、表51のように「役立つと思う」がほとんどを占め、多くの親が役立つと思っていると考えられる。

52. 今後通わせたい習いごと

今後通わせたい習い事はどんなものかを、自由記述してもらい、現在の習い事の内容によって、どのような差があるかをみたのが、表52と表53である。まず表52から、現在「運動」を習わせている親より、「おけいこ(情操)」「知育」を習わせている親の方が、5%有意差で、今後、ちがった習い事をさせようとする者が多かった。また、表52や表53から、現在通っている習い事の内容のちがいが、今後通わせたい習い事に反映しており、現在「運動」を習っている幼児は、1.おけいこ、2.運動、3.知育、の順に、現在「おけいこ(情操)」を習っている幼児は、1.運動、2.おけいこ、3.知育、の順に、また、現在「知育」を習っている幼児は、1.おけいこ、2.運動、3.知育、の順になっており、そこには、1%有意差が認められる。

53. 父の習ごとの種類

表47 通わせている理由

内容	種類	通わせている理由														
		健康効果	運動効果	音楽効果	言語・文字効果	絵画効果	受験効果	社会性が育つ	好奇心・創造性育つ	積極性が育つ	集中力が育つ	性格が変化する	近所にある	親の希望	本人の希望	その他
習い事の動	スイミングスクール	76	17	0	0	0	0	16	0	0	0	0	6	0	8	0
	体操クラブ	11	11	1	0	0	0	11	0	2	0	2	1	2	12	1
	サッカークラブ	3	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	3	0
	武道	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	その他のスポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	92	30	1	0	0	0	30	0	2	0	2	8	2	24	1
おけいこ(情操)	音楽教室	0	1	69	0	0	0	16	0	1	2	2	16	7	65	5
	絵画教室	0	0	2	0	8	2	7	7	0	1	1	2	1	3	0
	習字	0	0	0	14	0	0	4	0	0	0	0	1	0	8	2
	舞踊	1	5	4	0	0	0	5	0	0	0	0	2	1	8	1
	小計	1	6	75	14	8	2	32	7	1	3	3	21	9	84	8
知育	幼児教室	0	0	0	1	0	3	6	0	0	0	1	0	0	2	0
	塾	0	0	0	1	0	9	3	0	0	2	0	8	1	6	1
	英語教室	0	0	1	5	0	0	3	0	0	0	0	2	0	4	1
	小計	0	0	1	7	0	12	12	0	0	2	1	10	1	12	2

表48 通わせて良い点

内容	種類	通わせて良い点														
		健康効果	運動効果	音楽効果	言語・文字効果	絵画効果	受験効果	行儀・しつけ	社会性が育つ	好奇心・創造性育つ	積極性が育つ	集中力が育つ	性格が変化する	忍耐力が育つ	その他	不明
習い事の動	スイミングスクール	61	8	0	0	0	0	0	12	1	3	0	5	4	24	8
	体操クラブ	10	19	0	0	0	0	2	4	0	3	2	8	0	6	4
	サッカークラブ	2	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	1	3
	武道	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	1	1
	その他のスポーツ	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0
	小計	75	29	0	0	0	0	6	20	1	6	2	15	5	32	16
おけいこ(情操)	音楽教室	0	3	130	0	0	0	0	9	2	6	8	4	5	11	29
	絵画教室	0	0	4	0	12	0	0	2	3	0	0	1	0	2	12
	習字	0	0	0	19	0	0	1	3	0	0	5	1	0	2	3
	舞踊	2	8	9	0	0	0	0	1	0	0	1	2	1	5	4
	小計	2	11	143	19	12	0	1	15	5	6	14	8	6	20	48
知育	幼児教室	0	0	0	2	0	1	0	5	0	1	1	0	0	3	2
	塾	0	0	0	2	0	11	1	2	1	5	6	2	0	0	5
	英語教室	0	0	0	3	0	0	0	4	1	2	0	0	0	1	6
	小計	0	0	0	7	0	12	1	11	2	8	7	2	0	4	13

表49 通わせて悪い点

内容	種類	通わせて悪い点										
		効果がない	心身に悪影響	性格上好ましくない	悪い癖がつく	動機が低下する	親の扱いが悪くなる	マンネリ化	生活時間上問題である	親の自由な時間がない	その他	特になし
習い事の内容	スイミングスクール	0	14	1	0	3	0	0	6	1	0	59
	体操クラブ	1	2	0	1	1	0	0	0	1	1	34
	サッカークラブ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	武道	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	その他のスポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1	17	1	1	4	0	0	7	2	1	101
おけいこ(情操)	音楽教室	0	5	4	2	9	2	1	10	0	3	110
	絵画教室	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	18
	習字	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	15
	舞踊	0	3	0	0	1	0	1	0	0	1	14
	小計	1	13	4	2	10	2	2	10	0	6	157
N・S	幼児教室	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	塾	1	2	0	2	1	0	0	3	0	0	14
	英語教室	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	10
	小計	2	5	1	2	1	0	1	4	0	0	27

表50 習いごとは楽しいか

内容	種類	習い事は楽しいか			
		はい	まあまあ	いいえ	ものによって違う
習い事の内容	スイミングスクール	79	32	0	7
	体操クラブ	37	10	1	5
	サッカークラブ	5	6	0	1
	武道	1	1	0	0
	その他のスポーツ	0	0	0	0
	小計	122	49	1	13
おけいこ(情操)	音楽教室	134	51	2	8
	絵画教室	27	4	0	3
	習字	23	3	0	5
	舞踊	18	8	0	1
	小計	202	66	2	17
N・S	幼児教室	7	4	1	0
	塾	22	6	0	3
	英語教室	11	3	0	3
	小計	40	13	1	6

表51 習いごとは役立つか

内容	種類	習い事は役立つか		
		役立つと思う	あまり思わない	わからない
習い事の内容	スイミングスクール	107	3	7
	体操クラブ	46	2	4
	サッカークラブ	12	0	0
	武道	2	0	0
	その他のスポーツ	0	0	0
	小計	167	5	11
おけいこ(情操)	音楽教室	172	3	17
	絵画教室	29	1	4
	習字	28	0	3
	舞踊	21	2	4
	小計	250	6	28
N・S	幼児教室	11	1	0
	塾	23	2	5
	英語教室	15	0	1
	小計	49	3	6

表52 今後通わせたい習いごと

内容	今後通わせたい習いごと 種類	差 p < 0.05															
		スイミングスクール	体操クラブ	サッカークラブ	武道	その他のスポーツ	音楽教室	絵画教室	習字	舞踊	幼児教室	塾	英語教室	そろばん	その他	習わせるとした人数	習わせないとした人数
運動	スイミングスクール	2	4	0	3	4	28	5	13	0	0	1	2	4	0	57	62
	体操クラブ	13	0	1	1	0	14	2	9	1	0	0	3	4	0	34	18
	サッカークラブ	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	8	4
	武道	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	その他のスポーツ	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
	小計	22	4	2	4	4	46	7	22	1	0	1	6	9	0	103	147
おけいこ(情操)	音楽教室	38	5	3	4	2	3	5	26	5	0	4	12	10	1	95	101
	絵画教室	10	2	0	2	0	8	0	5	2	0	0	2	0	0	27	8
	習字	4	1	0	0	1	6	0	0	1	0	0	4	4	0	17	14
	舞踊	0	0	0	1	1	7	0	2	1	0	1	1	0	0	10	16
	小計	52	8	3	7	4	24	5	33	9	0	5	19	14	1	149	139
知育	幼児教室	4	0	0	0	0	2	0	1	3	0	0	0	0	0	8	5
	塾	7	0	0	0	1	6	0	1	0	0	0	1	1	0	15	16
	英語教室	1	0	1	0	0	2	1	3	2	0	1	0	1	0	9	8
	小計	12	0	1	0	1	10	1	5	5	0	1	1	2	0	32	29

表53

内容	今後通わせたい習いごと 種類	運動	おけいこ	知育	
					差 P < 0.01
習い事の内容	スイミングスクール				
	体操クラブ				
	サッカークラブ				
	武道				
	その他のスポーツ				
	小計		36	76	16
おけいこ(情操)の内容	音楽教室				
	絵画教室				
	習字				
	舞踊				
小計		74	71	38	
知育の内容	幼児教室				
	塾				
	英語教室				
	小計		14	21	4

表54 父の習いごとの種類

内容		父の習いごとの種類	スポーツ	音楽	絵	習字	舞踊	幼児教室	進学教室	英語教室	そろばん	その他	差		
													いる父の数	N.S.	
習い事の内容の差	運動	スイミングスクール	11	11	10	14	0	0	20	5	38	1	67	52	
		体操クラブ	3	3	3	6	0	0	7	2	14	0	24	27	
		サッカークラブ	1	2	0	3	0	0	0	0	0	4	0	9	3
		武道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		その他のスポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	小計	16	16	13	23	0	0	27	7	56	1	101	86		
	おけいこ(情操)	音楽教室	20	17	9	12	0	0	28	2	56	1	96	99	
		絵画教室	9	5	2	2	0	0	7	2	10	0	22	13	
		習字	2	3	0	1	1	0	5	0	10	0	16	15	
		舞踊	3	5	1	3	0	1	4	0	2	1	13	13	
	小計	34	30	12	18	1	1	44	4	78	2	147	140		
	知育	幼児教室	2	1	0	0	0	0	3	0	4	0	7	6	
塾		4	3	2	2	0	0	3	0	6	0	13	18		
英語教室		4	3	1	0	0	0	4	1	4	0	11	6		
小計		10	7	3	2	0	0	10	1	14	0	31	30		

表55 母の習いごとの種類

内容		母の習いごとの種類	スポーツ	音楽	絵	習字	舞踊	幼児教室	進学教室	英語教室	そろばん	その他	差	
													いる母の数	N.S.
習い事の内容の差	運動	スイミングスクール	5	41	15	14	7	0	20	2	50	2	94	25
		体操クラブ	1	22	12	10	5	0	12	1	23	0	42	10
		サッカークラブ	0	5	1	3	2	0	3	0	2	0	8	4
		武道	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	1
		その他のスポーツ	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1
	小計	5	68	28	29	14	0	36	3	78	2	147	41	
	おけいこ(情操)	音楽教室	4	70	17	24	7	0	30	2	96	1	155	41
		絵画教室	0	22	7	5	2	0	6	0	18	0	33	2
		習字	0	10	3	5	0	0	6	0	17	1	25	6
		舞踊	1	12	6	6	3	1	5	2	11	1	21	5
	小計	5	114	33	40	12	1	47	4	142	3	234	54	
	知育	幼児教室	2	6	3	3	1	0	4	0	8	1	12	1
塾		2	10	5	5	2	0	5	0	12	1	24	7	
英語教室		1	8	3	4	1	0	5	1	6	0	14	3	
小計		5	24	11	12	4	0	14	1	26	2	50	11	

父親の小学生頃までに通った習い事が、幼児の習い事にどう関係しているかをみるところ、表54のように父親の習い事の有無や内容によって、何ら差がなく、父親の習い事は、幼児の習い事に何ら影響していない事がわかった。

54. 母の習いごとの種類

母親の小学生頃までに通った習い事が、幼児の習い事にどう関係しているかをみるところ、表55のように、父親の時と同じように、習い事の有無や内容によって何ら差がなく、母親の習い事は、幼児の習い事に何ら影響していない事がわかった。

55. 食事のリズム及び食欲

朝食及び夕食の規則性及び子どもの食欲を観察した。表56に示すように81~91%の者は食事を定刻に摂っているが、食事の時刻の不定な者は朝食より夕食に多い。また、朝食時刻が一定な者の85%は夕食も一定で、さらに朝食時刻の不定な者の61%は夕食も不定であった。朝食時における子どもの食欲をみると、半数の者は「ふつう」と答えているが、むらのある者が26%にみられたのに対し、夕食では、むら食いの者の割合は減少し、良好の者

表56 朝食及び夕食の規則性と食欲

		朝 食		夕 食	
		N	%	N	%
規則性	いつも一定	1031	91.0	884	80.5
	日により遠う	102	9.0	214	19.5
食欲	良 好	229	19.5	433	36.3
	普 通	592	50.3	564	47.2
	む ら	300	25.5	176	14.8
	不 良	40	3.4	12	1.0
	興味がない	15	1.3	8	0.7

の割合が増加している。食欲が不良、或いは食べることに興味がないとする者は朝食で約5%、夕食2%にみられ、また、朝食及び夕食の欠食率は2.6%及び0.7%であった。

年齢別に食事の規則性と食欲の有無を観察すると表57のようで、4歳以降になると朝食を一定にとる者の割合

表57 年齢別にみた食事の規則性と食欲

		1~2歳		3 歳		4 歳		5 歳		6 歳以上		
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
規則性	朝食	一 定	76	89.4	155	82.0	309	92.0	352	94.6	133	91.7
		不 定	9	10.6	34	18.0	27	8.0	20	5.4	12	8.3
	夕食	一 定	72	83.7	142	78.0	264	80.4	292	82.5	108	76.6
		不 定	14	16.3	40	22.0	64	19.5	62	17.5	33	23.4
食欲	朝 食	良 好	25	28.1	36	18.5	63	17.6	73	18.8	30	19.2
		ふ つ う	35	39.3	94	48.2	173	48.5	200	51.4	84	53.8
		む ら	24	27.0	54	27.7	97	27.2	94	24.2	29	18.9
		不 良	2	2.2	3	1.5	16	4.5	12	3.1	7	4.5
		興 味 な し	1	1.1	2	1.0	2	0.6	6	1.5	4	2.6
	欠食すること有	3	3.4	8	4.1	11	3.1	8	2.1	2	1.3	
	夕 食	良 好	36	40.0	61	31.3	112	31.5	153	39.3	66	42.3
		ふ つ う	34	37.8	94	48.2	174	48.9	183	47.0	76	48.7
		む ら	16	17.8	37	19.0	64	18.0	46	11.8	12	7.7
		不 良	2	2.2	0	0	5	1.4	5	1.3	0	0
興 味 な し		1	1.1	3	1.5	1	0.3	2	0.5	1	0.6	
欠食すること有	2	2.2	0	0	2	0.6	1	0.3	2	1.3		

表58 食欲と食事時刻の規則性

		朝食時刻				夕食時刻			
		一定		不定		一定		不定	
		N	%	N	%	N	%	N	%
朝 食	良 好	205	94.0	13	6.0	179	84.8	32	15.2
	ふ つ う	514	93.5	36	6.5	445	83.6	87	16.4
	む ら	243	84.7	44	15.3	200	72.2	77	27.8
	不 良	37	92.5	3	7.5	31	77.5	9	22.5
	興味がない	13	92.9	1	7.1	10	76.9	3	23.1
	欠食することあり	19	65.5	10	34.5	18	66.7	9	33.3
夕 食	良 好	384	92.8	30	7.2	331	81.7	74	18.3
	ふ つ う	477	91.7	43	8.3	405	82.2	88	17.8
	む ら	145	85.8	24	14.2	124	72.9	46	27.1
	不 良	7	58.3	5	41.7	8	66.7	4	33.3
	興味がない	8	100.0	0	0	6	75.0	2	25.0
	欠食することあり	6	85.7	1	14.3	5	71.4	2	28.6

が増加している。これは登園、登校のためであろう。一方、夕食時刻の不定な者は6歳以降に多い。また、3歳代は他の年齢層に比べ、朝食、夕食共に不規則な者の割合が高かった。

食欲の有無をみると、朝食では1～2歳は他の年齢層に比べて食欲の良好な者が多い。一方、5歳以上になると朝食、夕食共むらな者の割合は減少する。食べることに興味を示さない者、または欠食する者に年齢差は殆んどみられない。また、食欲の良否と日課との間には何らの関係も見出せなかった。

次に食欲と食事時刻の規則性を観察した(表58)。朝食では食欲良好な者に比べ不良または欠食する者は、朝食、夕食共に食事時刻の不定な者の割合が高く、また、夕食時と同様な傾向が観察された。子どもにとってよい食欲を持続するためには食事時刻の規則性が大きく影響していることが示唆された。

表26に示した18種類の微症状の発症に及ぼす食事リズム及び食欲の有無の関係を観察した。表59に示すように朝食、夕食共に食事時刻の不定な者は一定な者に比べ、微症状をもつ者の割合が高く、夕食に比べ朝食にその差が大である。

また、食欲がむら、不良、または食べることに興味なしとする者は良好な者に比べ、微症状をもつ者の割合が高い。微症状の種類をみると、食事時刻の不定な者は

表59 健康に及ぼす食事のリズムと食欲

			微 病 状	
			なし	あり
食事 の リ ズ ム	朝 食	一 定	40.4	59.6
		不 定	26.0	74.0
	夕 食	一 定	39.2	60.8
		不 定	35.7	64.3
食 欲	朝 食	良 好	47.1	52.9
		ふ つ う	43.4	56.6
		む ら	31.4	68.6
		不 良	10.0	90.0
		興味なし	0	100.0
		欠食する	23.3	76.7
	夕 食	良 好	48.1	51.9
		ふ つ う	39.9	60.1
		む ら	19.0	71.0
		不 良	16.7	83.3
		興味なし	0	100.0
		欠食する	12.5	87.5

一定な者に比べ、口内炎、頭痛、腹痛、下痢、便秘、虫歯、不眠などを訴える者の比率が高く、また、休園する割合も高い。一方、食欲良好群に比べ、むら及び不良の者は風邪、便秘、疲労、腹痛、虫歯、休園などに関する発症が多い傾向が観察された。

このように規則的な食事リズムが食欲にも大きく影響を及ぼし、それがさらに子どもの健康状態の良否にも関わっていることが示唆された。

56. 子どもの偏食及び残食時における母親の態度

対象の偏食の有無をみると表60のよようで、約1/3の者

表60 偏食の有無と嫌われる食品

	N	%
偏食なし	583	63.9
偏食あり	329	36.1
魚類	30	9.1
肉類 (含:ハム・ソーセージ)	29	8.8
卵	8	2.4
牛乳・乳製品	11	3.3
豆類	6	1.8
野菜類	246	74.8
果実類	7	2.1
ご飯類	5	1.5
麺類	2	0.6
パン類	1	0.3

に偏食が観察された。年齢別に偏食状況をみると(表61)、偏食を有する者の割合は1~2歳児に比べ3歳児以上に高く、また、保育園児では29.6%であるのに対し、幼稚園児では38.6%と、後者に高い。保育園では集団の場で園児が同じものを食べることによる偏食矯正の効果が現われていることが伺えた。

子どもに嫌われる食品の中、野菜類が首位を占め(74.8%)、次いで魚類、肉類が挙げられているが、これらはどれも9%前後で、他の食品は数%にしかすぎない。

残食時における母親の態度をみると(表62)約90%の母親は子どもに何らかの働きかけを行っているが、それにも拘らず残す者が33%に観察された。残食しても放っておく者は6%にしかすぎない。

年齢別に母親の態度を観察すると、すすめると大体食べる者の割合は年齢と共に増加するが、すすめても残す者は1~2歳児に多い。これは年齢による言語の理解度などが影響を及ぼしている可能性が考えられる。また、放っておく者の割合も3歳以上児に比べ1~2歳児に高い。

子どもの偏食の有無と残食時における母親の態度との関連づけを行ったところ、当然のことながら偏食有とする者は無とする者に比べ、母親がすすめても残食する者の割合が高く、大体食べる者の割合は低い(表63)。しかし、放っておく者の割合は両群間に差はみられない。

57. 間食の与え方

間食の与え方、与える場所及び与える時間を表64に示す。63%の者は間食を決まった時間に与えられているが、ほしがる時に与えられている者も21%に観察される。また、大部分の者は自分の家で午前或いは午後の時間に間

表61 年齢別にみた偏食の有無

	1~2歳		3歳		4歳		5歳		6歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
偏食なし	55	76.4	59	57.8	167	60.1	192	64.6	66	56.4
偏食あり	17	23.6	43	42.2	111	39.9	105	35.4	51	43.6

表62 残食時における母親の態度

	全平均		1~2歳		3歳		4歳		5歳		6歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
すすめると大体食べる	693	58.6	38	43.7	110	57.9	196	55.4	242	62.5	103	66.9
すすめるが残す	386	32.6	40	46.0	63	33.2	129	36.4	107	27.6	41	26.6
無理に食べさせる	42	3.6	1	1.1	6	3.2	11	3.1	20	5.2	4	2.6
放っておく	71	6.0	11	12.6	13	6.8	20	5.6	20	5.2	7	4.5

表63 偏食の有無と残食時に対する母親の態度

	すすめると大体食べる		すすめるが残す		無理に食べさせる		放っておく	
	N	%	N	%	N	%	N	%
偏食なし	403	70.8	112	19.7	17	3.0	37	6.5
偏食あり	130	40.0	164	50.5	14	4.3	17	5.2

食が与えられている。年齢によって間食の与え方、与える場所に差異はみとめられなかったが、1～2歳及び3歳児は当然のことながら4歳以上児に比べ午前中に間食を与えられる者の比率が高い。また、夕食前に間食を摂る者は6歳以上児に多かった。これはけいこごとなどによ

表64 間食の与え方

		N	%
与え方	決まった時間に	684	63.4
	時間不定・回数決めて	174	16.1
	ほしがる時に	221	20.5
与える場所	家で	643	91.4
	友達の家で	33	4.7
	外で	2	0.3
	買物・外出の途中	25	3.6
与える時	朝食前	2	0.2
	午前中	159	13.4
	午後	895	75.0
	夕食前	84	7.1
	夕食後	49	4.1
	就寝前	2	0.2

る帰宅時間の遅延が関係しているのだろうか。

さらに、子どもの日課の規則性と間食の与え方、与える場所との関連づけを試みた。表65からも明らかのように、日課全体が不定な者は一定の者に比べ、間食をほしがるままに与えている者の割合が高く、また、他家で間食をとる割合も高い。しかし、一方、日課の不規則な場合でも約半数は間食を決まった時刻に与えているということは、母親の意識の中に間食がかなり大きな位置を占めていることを伺わせる。

母親が用意する間食の内容をみると表66のようで、一位に果実類、次いでスナック菓子、洋菓子、ビスケット・クッキー、せんべいの順で、牛乳、乳製品は6～8位にあげられている。牛乳、乳製品に対しスナック菓子が上位に挙げられているのは栄養的視点よりも、子どもの嗜好が受け入れられて間食が用意されることを物語っており、また、用意する時の手軽さなども影響を及ぼしているものと思われる。一方、子どもの喜ぶ間食内容を見ると、母親が与える内容とは必ずしも一致しておらず、一位にアイスクリーム、次いで果物、洋菓子、スナック菓子、チョコレートの順になった。アイスクリームが上位を占めたのは、調査期間が夏期であったことが関係しているものと思われる。

年齢別に母親が与える間食、子どもの好む間食をみると、両者とも年齢と共に果物の割合が減少し、スナック

表65 子どもの日課と間食の与え方

		全く決ま ていない		余り決ま ていない		大体一定		殆んど一定		大体又は 殆んど一定	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
与え方	決まった時間に	7	46.7	59	53.2	413	63.2	106	71.6	80	69.6
	時間不定・回数決めて	2	13.3	21	18.9	115	17.6	15	10.1	10	8.7
	ほしがる時に	6	40.0	31	27.9	125	19.1	27	18.2	25	21.7
与える場所	家で	11	78.6	62	86.1	402	91.6	71	95.9	72	93.5
	友達の家で	3	21.4	4	5.6	21	4.8	2	2.7	1	1.3
	外で	0	0	1	1.4	1	0.3	0	0	0	0
	買物・外出の途中	0	0	5	6.9	15	3.4	1	1.4	4	5.2

表66 母親が用意する間食，子供が喜ぶ間食

	母親が 与えるもの		子供が 喜ぶもの	
	N	%	N	%
果 物	494	48.7	239	26.2
スナック菓子	304	30.0	229	25.1
洋 菓 子	283	27.9	235	25.8
ビスケット クッキー	264	26.0	95	10.4
せんべい	260	25.6	63	6.9
アイスクリーム	240	23.7	260	28.5
牛 乳	229	22.6	56	6.1
ヨーグルト チーズ	152	15.0	63	6.9
菓子パン ドーナツ	132	13.0	28	3.1
ジュース	124	12.2	87	9.5
ア メ	53	5.2	75	8.2
芋 類	50	4.9	17	1.9
チョコレート	48	4.7	133	14.6
ガ ム	32	3.2	49	5.4
乳酸菌飲料	16	1.6	12	1.3
和 菓 子	16	1.6	12	1.3
お に ぎ り	16	1.6	2	0.2
アイスクャンデー	9	0.9	12	1.3
炭酸飲料	8	0.8	5	0.5
サンドイッチ ハンバーガー	5	0.5	4	0.4
お 好 み 焼	4	0.4	1	0.1
麵 類	2	0.2	4	0.4
他	47	4.6	31	3.4

菓子及びアイスクリームの割合が増加している。このことから、間食を用意する場合には、子どもの嗜好がかなり考慮されていることが伺えた。

次に微症状の発症に及ぼす間食の与え方の影響を観察した(表67)。微症状のある者はない者に比べ、間食を不定に与えられる者及び外出の途中で与えられる者の割合が高い。間食の与え方と微症状の種類との関連をみると、間食を不定に与えられる者は規則的に与えられる者に比べ、虫歯、風邪、食欲不振の発症割合が高い傾向がみられた。

58. 子どもの食環境及び母親の食卓に対する考え方
子どもの食環境を食事時の共食者の有無及び食卓に対する母親の考え方から観察した。

表68に示すように、全平均でみると家族揃って食事を摂る者は朝食で約半数、夕食で60%、逆に子ども達だけで乃至一人(孤食)で摂る者は前者17%、後者15%に観察された。朝食、夕食共に孤食する割合は年齢とともに増加している。

食卓に対する母親の考え方をみると、共食は時間的に無理、またはテレビをみながら摂る者は約1/4~1/3にみられた(表69)。

このような母親の食卓に対する態度が食リズムや子どもの食欲にどのように影響を及ぼすかを観察した(表70)。共食を心がけ、食卓を囲らんの場とする家庭では、テレビをみながら、または、共食は時間的に無理とする者に比べ、朝食、夕食共に食リズムが一定の者の割合が高く、また、子どもの食欲にも良い結果をもたらしている。

さらに、このような母親の態度が児の健康に及ぼす影響を観察した。表71からも明らかのように、朝食、夕食共に孤食する者は家族全員で食事を摂る者に比べ、健康上問題を有する者の割合が高く、ことに朝食においてその傾向が著明であった。また、共食は心がけ、食事を膳の中心とする、或いは食卓を囲らんの場とするなど、食事に対して積極的姿勢をもつ場合は、そうでない場合に比べ健康上、問題なしとする者の割合が高い。

表67 微症状の有無と間食の与え方

		与 え 方			与 え る 場 所			
		決った時間	時間不定・ 回数一定	ほしがる時	家 で	他 家 で	外 で	外出の 途中で
微 症 状 な し	N	285	55	75	239	13	1	6
	%	68.7	13.3	18.0	92.3	5.0	0.4	2.3
微 症 状 あ り	N	943	310	394	1025	66	6	64
	%	57.3	18.8	23.9	88.3	5.7	0.5	5.5

表68 食環境

		全平均		1~2歳		3歳		4歳		5歳		6歳以上	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
朝 食	家族全員	609	50.9	42	46.2	87	44.8	191	53.4	208	53.7	77	49.0
	父と	60	5.0	5	5.5	9	4.6	20	5.6	15	3.9	11	7.0
	母と	449	37.5	37	40.7	87	44.8	134	37.4	137	35.4	52	33.1
	子供達だけ	166	13.9	4	4.4	19	9.8	49	13.7	58	15.0	35	22.3
	一人で	32	2.7	6	6.6	7	3.6	6	1.7	10	2.6	3	1.9
	祖父母と	62	5.2	6	6.6	11	5.7	22	6.1	14	3.6	8	5.1
夕 食	家族全員	721	60.6	62	68.9	113	58.9	213	60.3	233	59.9	95	61.3
	父と	16	1.3	3	3.3	1	0.5	5	1.4	3	0.8	1	0.6
	母と	420	35.3	25	27.8	70	36.5	131	37.1	138	35.5	51	32.9
	子供達だけ	171	14.4	5	5.6	22	11.5	56	15.9	58	14.9	30	19.4
	一人で	3	0.3	2	2.2	1	0.5	0	0	0	0	0	0
	祖父母と	69	5.8	7	7.8	8	4.2	24	6.8	23	5.9	5	3.2

表69 食卓に対する母親の態度

	N	%
テレビをみながら	360	29.9
共食は時間的に無理	306	25.4
共食を心がけている	746	62.0
食卓を団らん場とする	492	40.9
食事を膳の中心とする	171	14.2

59. 家族の食事及び食事作りに対する母親の考え方

毎日の食事の準備状況を表72に示す。3食とも栄養を考えて準備する者は約20%、夕食はきちんと準備するが朝・昼は軽い、または、2食はきちんと準備するが1食はありあわせのものを摂る者がそれぞれ約40%を占めている。

食事は家族の健康を考えて作る、食事作り特に困ることや問題はないとする者はそれぞれ45%、食事作りは楽しいとする者、16%に観察されるが、逆に食事考えるのが面倒という者が20%にみられた(表73)。

食事の準備にかかる時間は表74の通りで、約半数の者は朝食及び昼食の準備に30~40分間、夕食では60~90分間をかけている。

母親の食事に対する姿勢と子どもの健康状態との関連づけを試みた(表75)。3食とも栄養を考えて食事作り

をする場合に児の健康上問題を有する者の割合は他に比べて低く、また、3食ともありあわせは最高を示した。また、表73に示した項目を消極的及び積極的姿勢、或いは問題なしに分けて観察してみると、問題なし、または積極的姿勢をもつ場合に、健康上問題ありとする者の割合が低い。

60. 栄養・食事に関する情報の入手

子どもの栄養・食事に関する情報の入手及びその実行状況を表76に示す。全平均でみると情報を得る機会がない者は9%、約70%の者は本、テレビ、ラジオ、近隣者や幼稚園で情報を得ている。しかし、それを実行している者は約1/3、半数の者は実行しにくいという。

栄養・食事に興味を示す者の割合は教育程度が高くなるにつれて高くなる。情報の入手は中卒の母親は大卒の者に比べ保健所による者が多く、後者ではマスコミによる割合が高い。

情報の入手の機会のある者はない者に比べ、また、それを実行している者はしない、または迷わされる者に比べ、児が微症状をなしとする者の比率が高かった。

2. 「実施機関に対する調査」の結果と考察

現在、各種の習い事を実施、運営している機関の中で、人気の高いスイミングスクールにおける実態は、どんなものか、以下はその結果であり、詳細は結果一覧を参照されたい。

表70 食卓に対する母親の態度と食事リズム及び食欲との関係 (%)

			テレビを みながら	時間的に 無理	家族が一緒	食卓は 団らんの場	食事は 躰の中心
食事 リズム	朝食	一 定	29.1	25.4	61.5	42.7	14.7
		不 定	43.6	28.7	59.4	30.7	12.9
	夕食	一 定	28.1	24.4	62.5	45.1	14.5
		不 定	39.3	31.3	56.5	29.4	13.1
食	朝 食	良 好	28.3	21.7	65.0	46.5	13.7
		普 通	22.7	23.6	64.1	42.2	13.7
		む ら	42.7	31.3	57.3	35.0	16.0
		不 良	37.5	32.5	47.5	42.5	15.0
		興 味 な し	33.3	26.7	53.3	26.7	6.7
		欠 食 す る	48.4	16.1	74.2	41.9	22.6
	夕 食	良 好	25.6	22.1	66.7	48.1	15.3
		普 通	28.6	26.5	60.5	37.9	12.6
		む ら	41.1	29.7	56.6	35.4	15.4
		不 良	50.0	8.3	75.0	25.0	41.7
	興 味 な し	50.0	37.5	37.5	25.0	0	
	欠 食 す る	50.0	37.5	50.0	25.0	12.5	

表71 微症状の発症と食環境及び母親の態度

		微 症 状	
		な し	あ り
朝 食	家 族 全 員	43.0	67.0
	父 と	28.8	71.2
	母 と	36.6	63.4
	子ども達だけ	37.9	62.1
	一 人 で	19.4	80.6
	祖 父 母 と	38.7	61.3
	夕 食	家 族 全 員	40.4
父 と	50.0	50.0	
母 と	36.5	63.5	
子ども達だけ	36.2	63.8	
一 人 で	33.3	66.7	
祖 父 母 と	36.2	63.8	
母 親 の 態 度	テレビをみながら	33.7	66.3
	共食は時間的に無理	35.2	64.8
	共食を心がけている	40.6	59.4
	食卓を団らんの場とする	43.5	56.5
	食事を躰の中心とする	41.7	58.3

表72 毎日の食事の準備

	N	%
夕食はきちんと準備・朝、昼は軽い	470	39.2
2食はきちんと・1食はありあわせ	476	39.7
2食はきちんと・1食は時々ぬく	25	2.1
主人外食多し、3回ともありあわせ	4	0.3
3食とも栄養を考えて準備	248	20.7

表73 食事作りに対する考え

	N	%
食事を考えるのが面倒	245	20.5
調理がわずらわしい	35	2.9
買物が大変、時間がない	98	8.2
子供の送迎のため時間がない	33	2.8
子供が小食で作りがいがいいがない	99	8.3
主人は外食多く、準備が億劫	13	1.1
食事作りは楽しい	189	15.8
家族の健康を考えて作る	560	46.9
特に困ること、問題はない	534	44.8

表74 食事の準備にかける時間

	朝食		昼食		夕食	
	N	%	N	%	N	%
～ 10 分	11	0.9	11	1.0	1	0.1
10分～20分	234	19.7	195	18.4	2	0.2
20分～30分	204	17.1	235	22.1	5	0.4
30分～40分	562	47.3	508	47.8	96	8.1
40分～50分	87	7.3	67	6.3	132	11.1
50分～60分	11	0.9	5	0.5	32	2.7
60分～90分	76	6.4	40	3.8	622	52.2
90 分 ～	5	0.4	1	0.1	301	25.2

表75 食事作りに対する母親の姿勢と児の健康 (%)

		徴 症 状	
		な し	あ り
食事の準備	夕食はきちんと、朝・昼食は軽い	34.6	65.4
	2食はきちんと、1食はあ り合せ又はぬく	39.3	60.7
	3食ともありあわせ	25.0	75.0
	3食とも栄養を考える	49.0	51.0
食事作り	消 極 的 姿 勢	23.6	76.4
	積 極 的 姿 勢	41.2	58.8
	問 題 な し	44.6	55.4

表76 子どもの栄養・食事に関する情報の入手

		全 平 均		中 卒		高 卒		短大・専門学校		大 学	
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
情報の入手	機会がない	109	9.1	5	10.2	62	11.9	27	7.2	8	4.5
	時々ある	657	55.0	28	57.1	271	51.8	196	52.5	112	62.6
	よくある	189	15.8	5	10.2	72	13.8	72	19.3	34	19.0
	興味がある	488	40.8	15	30.6	207	39.6	164	44.0	83	46.4
	あまり興味がない	67	5.6	3	6.1	33	6.3	19	5.1	9	5.0
手段	幼稚園	343	32.2	11	27.5	149	33.6	105	30.0	57	33.9
	保健所	90	8.5	8	20.0	33	7.4	30	8.6	14	8.3
	病院	45	4.2	2	5.0	15	3.4	18	5.1	8	4.8
	本	571	53.6	15	37.5	233	52.5	195	55.7	100	59.5
	新聞	395	37.1	5	12.5	156	35.1	134	38.3	73	43.5
	テレビ・ラジオ	457	42.9	11	27.5	194	43.7	153	43.7	75	44.6
	友人・親・姉妹	404	37.9	14	35.0	169	38.1	140	40.0	59	35.1
	その他	52	4.9	3	7.5	14	3.2	19	5.4	13	7.7
実行	大体実行している	354	33.8	12	30.0	154	35.4	106	30.9	60	35.5
	実行しにくい	588	56.2	20	50.0	240	55.2	201	58.6	95	56.2
	実行しない	88	8.4	8	20.0	35	8.0	28	8.2	13	7.7
	迷わされる	31	3.0	2	5.0	13	3.0	12	3.5	2	1.2

1. 実施内容

どのスイミングスクールにも、乳幼児を対象とした、クラスが設置されており、早期に指導する形態をとっていることが明らかになった。年齢は0歳児から就学児童に至る、比較的長期にわたる指導がとられている。また、練習日数は、週に1~2回が大多数を占め、1日あたりの練習時間も1時間~1時間30分となっている。指導にあたっては、集団(グループ)形成が行なわれている。また、入学金は、5,000~6,000円が全体の47.4%で、約半数近くとなっている。月謝も、4,500~6,000円が68.4%で7割近い割合を占めている。次に通う時間は、15~30分が95.7%となっている。しかし、中には1~2時間かかって通っている者も、少数ではあったが、これがわかった。また、指導員の中で占める専任と非常勤の割合は、6:4となっている。中でも非常勤の指導員では、主婦が半分を占めているのが、特徴といえる。

2. 指導目標

スイミングスクールの指導目標は、1.健康・体力、2.運動、3.社会性、4.リズム感、5.情緒、6.知能・言語、8.性格・しつけ面、となっており、健康・体力、運動の面ばかりでなく、スイミングを通じて社会性が育てほしいとの期待が、大きいことも特徴のひとつとなっている。特に、今日のように子ども集団が地域の中で形成されにくく、社会性の育つ場が失なわれつつあることを考えると、スイミングスクールも、意図的な仲間づくりの場として、今後は注目できよう。

3. 効果

スイミングを通しての効果は、1.健康・体力、2.運動、3.社会性、4.リズム感、5.情緒、6.知能、7.言語・性格、の順にあげられており、指導目標とはほぼ一致している。またこの結果を、「幼児の生活」のアンケート調査の親の評価(表48)と比較してみると、「リズム感、情緒、知能、言語」の面では、評価に差がある事がわかる。

4. 今後のスイミングスクールの指向性

スイミングスクールが、今後どのような方面を指向するか調べたところ、1.健康だけでなく、医療水泳の充実を、2.初心者への指導、3.障害児の為の水泳指導など、あげるところが多かった。その他「しつけや社会性を養成する為の水泳指導のあり方(2件)」や「高学年になると退会し、学習塾へ行く傾向があるので、今後はこうした対策に取り組む必要がある(2件)」などを指摘するスイミングスクールもあった。以上の事から、習い事が、徐々にではあるが、実施内容面で総合的な指導を整えつつある中で、こうした傾向は、今後ますます強まるものと思われる。

以上、スイミングスクールに対する調査の結果であるが、なにごと回答数そのものが少なかった為、実施機関の状況が十分につかむ事ができなかった。しかし、これまでこうした調査研究が極めて少なかった事を考慮に入れると、習い事、とりわけスイミングスクールの実情の一端を知る上では、意味をもつものと思われる。

結果一覧

1. 年齢 0歳児~6歳児(この間に、いくつかのクラスあり)
2. 曜日 月~土曜日の間で、決められた曜日
3. 時間 (1)1時間…14カ所(70%)
(2)1時間15分…2カ所(10%)
(3)50分~1時間30分…4カ所(20%)
4. 人数 すべてが集団で指導
5. 入学金 (1)6,000円…5カ所(25%)
(2)5,000円…4カ所(20%)
(3)2,000円…4カ所(20%)
(4)8,000円…2カ所(10%)
(4)3,000円…2カ所(10%)
この他、7,000円、4,000円、1,500円が各1カ所ずつあり
6. 月謝 (1)5,000円…6カ所(30%)
(2)6,000円…3カ所(15%)
(3)4,500円…2カ所(10%)
(3)4,800円…2カ所(10%)
この他、7,000円、5,800円、5,700円、4,000円、3,900円が各1カ所ずつあり
7. 通う時間 (1)15~30分…10カ所(50%)
(2)5~15分…5カ所(25%)
(3)30~45分…5カ所(25%)
8. 一番遠い所から通う時間
(1)1時間…8カ所(40%)
(2)1時間30分…3カ所(15%)
(2)2時間…3カ所(15%)
(4)40分…2カ所(10%)
(5)その他…4カ所(20%)
9. 指導員(複数回答)
(1)専任…20カ所
(2)非常勤…16カ所
a. 主婦…13カ所
b. 学生…11カ所
c. その他…2カ所
10. 指導目標(複数回答)
(1)健康・体力…20カ所 (2)運動…17カ所
(3)社会性…15カ所 (4)リズム感…10カ所

- (5) 情操…5カ所 (6) 知能…3カ所
 (7) 言語…3カ所 (8) しつけ…1カ所
 (9) 性格…1カ所

11. 効果 (複数回答)

- (1) 健康・体力…20カ所 (2) 運動…17カ所
 (3) 社会性…14カ所 (4) リズム感…11カ所
 (5) 情操…5カ所 (6) 知能…4カ所
 (7) 性格…1カ所 (8) 言語…1カ所
 (9) その他…1カ

IV まとめ

1. 現代の幼児が、どのような生活を送っているか、生活時間、習い事、食生活などを中心に、1206名の幼児をもつ親に、アンケート面接調査を行ったところ、以下の事がわかった。

- (1) 幼児の日課は、85%のものが、大体決まっている。
 (2) 就寝時間が、少し遅い幼児が、20%ぐらいみられ、しかも、それは年少児が多い。
 (3) 習い事に通っている幼児は、全体の34%で、大体3人に1人は、何らかの習い事をやっている事になる。
 (4) 習い事に、女兒の方が、男児より通っている者が多く、内容別にも、女兒はおけいこ(情操教育)が多いのに較べて、男児は運動、知育が多い。
 (5) 習い事に通わせるのは、第1子より第2子の方が多い。
 (6) 父親の学歴が高学歴なほど、幼児を習い事に通わせる割合が高い事がわかった。一方、母親の学歴は、何ら関係がなかった。
 (7) 習い事と、将来の期待像については、何ら関係がなかった。
 (8) 習い事と、健康状態では、習い事に通っているものに、「頭がいたい」「口の中にブツブツが出来る」などの症状を呈するものが多かった。
 (9) 幼児の習い事は、1つのみが多かった。
 (10) 習い事に通わせている理由は、習い事そのものの持つ効果を、あげている親が、一番多く、次に、社会性をあげていた。そして、この事は、通わせて良い点とも、結果が一致した。
 (11) 習い事に通わせて悪い点は、心身に悪影響すると、あげている親が、問題ありと思っている中では多かったが、全体として、それ程、問題を感じていない親が多かった。これは、健康面からみると、幼児と親の感じ方に、ギャップのある事をうかがえさせた。

(12) 親は、幼児が、習い事に楽しく通っており、しかも役立つと考えている。

(13) 両親の小学校までにやった習い事の種類の、現在の幼児の習い事の種類と、何ら関係がなかった。

(14) 朝食、夕食の食事リズムが不定な者は9~20%に観察され、食欲がむら、または不良な者は16~29%にみられた。食欲が良好な者に比べむら、不良または欠食する者は食事時刻の不定な者が多く、さらに徴症状を有する者の割合も高かった。

(15) 対象の約1/3に偏食がみられ、1~2歳児に比べ3歳以上児に多い。嫌われる食品の一位は野菜類で(74.8%)、魚や肉類は9%前後であった。残食した場合、90%の母親は何らかの働きかけを行っているが、それにも拘らず残食する者は1/3に観察され、偏食を有する者に残食割合が高かった。

(16) 間食をほしがる時に与えている者は21%で、子どもの日課が不定な者にこの割合は高い。母親が用意する間食は果実、スナック菓子、洋菓子、ビスケット・クッキー、せんべいの順で、子どもの喜ぶ間食の種類とは必ずしも一致していない。間食を不定に与えられる者に徴症状の発症が幾分高い傾向が観察された。

(17) 朝食及び夕食を子ども達だけで乃至一人で摂っている者の割合は前者17%、後者15%に観察され、孤食する者の割合は年齢と共に増加した。共食を心がけ、食卓を家族団らんの場合とする家庭は、テレビをみながら、または、共食を時間的に無理とする者に比べ、食事リズム、児の食欲及び健康によい影響を及ぼしていた。

(18) 食事を準備する場合、3食ともありあわせ、または1食は手ぬきする者は全体の80%を占めている。また、食事作りに積極的姿勢を示す者は約62%、消極的な者が1/3にみられ、これらの姿勢が児の健康状態に強く影響を及ぼしていた。

(19) 約70%の者は種々の手段により子どもの栄養・食事に関する情報を得ており、約1/3の者はそれを実行しているが、半数の者は実行しにくいという。情報の入手の機会のある者はない者に比べ、また、それを実行している者はしない、または迷わされる者に比べ、児が徴症状なしとする者の比率が高かった。

2. 習い事の運営機関の中で、人気の高い、スイミングスクールの実態を明らかにする為、アンケート調査を行ったところ、以下の事がわかった。

- (1) 対象年齢は0歳児からと、比較的長期にわたっている。

- (2) 練習日数は週に1～2回が大多数である。
- (3) 1日の練習時間は、1時間～1時間30分が多い。
- (4) 月謝は、4,500～6,000円のところが多い。
- (5) 指導員の中で占める専任と非常勤の割合は、6：4で、非常勤の中で、主婦の占める割合が高い。
- (6) 指導目標、また効果は、1.健康・体力、2.運動、3.社会性、4.リズム感、5.情緒、6.知能、などの順になっている。
- (7) 今後の指向性として、1.医療水泳の充実、2.初心

者の指導、3.障害児の水の水泳指導などが、あがっていた。

尚、結果の一部において、紙面の制約上、記載出来なかったものがあり、それらについては、日本教育心理学会第29回発表論文集を参考にされたい。

また、調査にあたっては、神田久男、藤守 守、山根百合子諸氏に多大な協力を得た事をここに記しておきたい。

積極的な子・慎重な子・ゆったりした子・冒険好きな子・明るい子・競争意欲がある子・
 協調的な子・人に左右されない子・情操豊かな子・探求心旺盛な子・運動のすぐれた子・
 勉強のできる子・友達の多い子・男(女)らしい子・礼儀正しい子

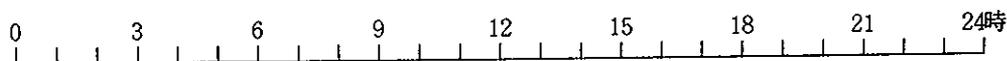
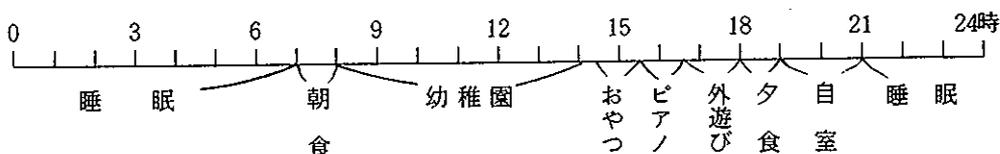
Q 5 ふだんの平日は大体お子さんの日課は決まっていますか?○をつけてください。

全く決まっていない・余り決まっていない・だいたい決まっている・殆ど決まっている

Q 6 お子さんの大体の日課、またはある一日の日課を書いてください。

その日はどんな天気でしたか? ()

記入例(晴の日)



Q 7 ふだんの平日、24時間をお子さんがどう過しているのか、それぞれの項目で時間(分)を書いて、

合計24時間になるようにしてください。

朝食 ()	} 計 ()	幼稚園にいる ()	} 計 ()	買物 ()	} 計 ()
昼食 ()		保育園にいる ()		入浴 ()	
おやつ ()		通園時間 ()		身仕度 ()	
夕食 ()		幼児教室にいる ()		病院 ()	
夜間の睡眠 ()	} 計 ()	往復の時間 ()			
昼寝 ()					
自宅の室内で1人で遊ぶ ()	}		近くの道路で遊ぶ ()		
“ 兄弟姉妹と遊ぶ ()			“ 公園 “ ()		

自宅の室内で友達と遊ぶ	()	} 計 ()	近くの空地で遊ぶ	()	} 計 ()
" 大人と "	()		自宅から離れた所で遊ぶ	()	
" テレビをみる	()				
友達の家で遊ぶ	()		その他	計 ()	
自宅の庭で遊ぶ	()				

Q 8 お子さんが次の項目に当てはまる場合に○をつけてください。

- ぜーぜーいいやすい・湿疹が多い・とびひができやすい・あせもができやすい・
- かぜをひきやすい・結膜炎をおこしやすい・げりをしやすい・便秘をしやすい・
- お腹を痛がることある・疲れやすい・頭がいたいことある・はなじを出すことある・
- 口の中にブツブツができやすい・骨折したことある・食欲のないこと多い・眠りが浅い・
- 幼稚園(保育園)を休むこと多い・虫歯がある・かんしゃくを起すこと多い・
- 特に問題はない

Q 9 お子さんを何か教室に通わせていますか? ・通わせている ・通わせていない
通わせている場合、それぞれの教室ごとに以下にご記入ください。

	(例)					
内 容	音楽教室					
曜 日	土曜日					
時 間	13時~ 14時					
月 謝	5,000円					
通う手段	徒 歩					
通う時間	10 分					
通わせて いる理由	友達が いるから					
通わせて 良い点	リズムが 身につく					
通わせて 悪い点	緊張気味 である					

3. ほしがる時に与える
4. おやつは家で食べることが多い
5. お友達の家でもらうことが多い
6. 外（公園）で食べるが多い
7. おつかい、外出の途中で買ったり、お店で食べるが多い

与える時：朝食前・午前中・午後・夕食前・夕食後・就寝前

どんなおやつを与えますか？

()

どんなおやつを喜びますか？

()

Q16 ご家族の毎日の食事について、あてはまるものに○をつけてください。

1. 夕食はきちんと準備するが朝・昼は軽い
2. 2食はきちんと準備するが、1食はありあわせのものをとる
3. 2食はきちんと準備するが、1食は時々ぬく
4. 主人が殆んど外食なので、3食ともありあわせのものですませることが多い
5. 3食とも栄養を考えて準備することが多い

Q17 食事作りに当ってあてはまるものに○をつけてください。

1. 食事を考えるのがめんどろ
2. 調理がわずらわしい
3. 買物が大変、または時間がない
4. 子供の送り迎えに追われ時間がない
5. 子供が少食で作りがいがない
6. 主人は外食が多く、準備がおっくろ
7. 食事作りは楽しい
8. 家族の健康を考えて作ることが多い
9. 食事作りに関して特に困ることや問題はない

Q18 食事の準備にかかる時間をご記入ください。

朝食：約()分 昼食：約()分 夕食：約()分

Q19 ふだんの食事の時について、あてはまるものに○をつけてください。

1. テレビをみながら食べるが多い
2. 家族一緒に食べるように心がけている
3. 家族一緒に食べたいが、時間的に無理
4. 食卓を家族の団らんの場に使っている
5. 食事をしつけの中心に考えている

Q20 ふだん、お子さんの食事を使う食品を食品ごとにもれなく○を入れてください。

	朝食の時に			お弁当または お昼食の時に			夕食の時に		
	よく使う	時々使う	使わ ない あ ま り	よく使う	時々使う	使わ ない あ ま り	よく使う	時々使う	使わ ない あ ま り
ご 飯									
め ん 類									
パ ン									
菓 子 パ ン 類									
ピ ザ									
牛乳・ヨーグルト・チーズ									
卵									
魚 類									
肉・ハム・ソーセージ									
豆 腐 ・ 豆 類									
野 菜 類									
果 物 類									
調 理 ず み 食 品	サ ラ ダ								
	煮 物								
	天 ぷ ら								
	カツ・コロケ								
	サンドイッチ								
	ホッパドク ハシバニ								
	寿 司								
折 詰 弁 当									
タイ ン ト ス	め ん 類								
	ご 飯								
冷 凍 食 品									
出 前 え も の									

◎ 給食のある人は休みの日を

Q21 お子さんの栄養・食事に関する情報について、あてはまるものに○をつけてください。

1. 情報を得る機会がない
2. 時々ある
3. よくある
4. 興味がある
5. あまり興味がない

何によって……幼稚園（保育園）・保健所・病院・本・新聞・テレビ（ラジオ）・友人（親、姉妹）・その他（ ）

- 情報を得られた方に……
1. 大体実行している
 2. 役立つことは多いが実行しにくい
 3. 実行しないことが多い
 4. 迷わされることが多い

附表 2.

アンケート用紙

実施内容に丸をおつけ下さい。

イ. 学習	ロ. 体操	ハ. スイミング	ニ. リトミック
ホ. 絵画工作	ヘ. 音楽	ト. 英語	チ. その他

教室名 ()

住所 ()

TEL (- -)

貴教室の他に同系列の教室をお持ちですか？ イ. 有る (カ所) ロ. 無い

Q1. 内容につき、コース別にお答え下さい。

コース	年齢	曜日	時間	人数	入会金	月謝
例： 入学準備	5～6歳	火・木	2：30 ～3：30	・個人 ・集団	20000円	15000円
	歳			・個人 ・集団	円	円
	歳			・個人 ・集団	円	円
	歳			・個人 ・集団	円	円
	歳			・個人 ・集団	円	円
	歳			・個人 ・集団	円	円

